



サカタニ友の会ニュース

発行者 株式会社サカタニ 集西条サカタニ ファミリーマート サカタニ京阪七条店 605-0993 京・東山区七条二丁目 電話 075-561-7974 URL www.sosake.jp/ E-mail info@sosake.jp 月刊 発行会員新聞 編集酒谷義郎 yosirou@sosake.jp

トランプと百人一首

お正月

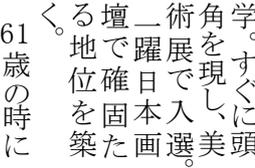
子供時代は月嵐あけて、駒を廻して遊びましよう!と待たれたものです。室内ではトランプやかるた!少し大きくなって百人一首か花札(写真)で



頃滅多に触れない女のこの手に振られる絶好のチャンスでした。半世紀以上前の昔ですが、トランプさんがアメリカ大統領になられて、ふと、昔の少年時代のお正月の遊びを思い出しました。

今月は師走、来月は正月。題する番組があり、それは、人々の親しく明るい、当時の隣近所のお付き合いの姿を描いたホームドラマでした。登場人物を、古く思案や迷信など対立させることで、新時代のあり方を伝えた。6年続いた番組は、家庭の民主化という役割を果たし、1963年、1377回をもって終了した。映画化も? その映画もテレビに押されて斜陽今やネット時代になってスマホが全盛情報も買物もこれで出来る頃です。オチヤン!これなほ一トコとまて!と八百屋さんで買う姿は少なく無くなりました。時代大抵の解決は出来る時代です。歩も家から出なくても隣の方と話をしながらも、不自由なく生きるようになります。

第3日曜日開催日11月16日(定例:朝9時) 第142回:朝粥食へおシャベリ会 講演・山田由希代様(報告者) 高木英智様



本日の講師は、堂本印象美術館 主任学芸員山田由希代様 ※テーマは、堂本印象の魅力!独自の表現を追求した日本画家。当時としては珍しくない九人きょうだいの3番目で本名は三之助。造り酒屋で、裕福な暮らし。長兄が演劇評論家、次兄は漆芸家。芸術一家であるが、父親が早くに亡くなり、借金の保証人になつてしまったことも災いし、家業は没落。一家を支えたのが若き日の堂本印象。西陣織の図案を描く仕事で雇い主から高い信頼を得て、支援を受け、27歳で美術学校へ入学。すぐに頭角を現し、美術展で入選。納めた、創造!という文字の一躍日本画壇で確固たる地位を築く。61歳の時に

念願の渡欧。スポンジが水を吸収するように「多くの収穫を得て帰国。生涯に寺院の障壁画を多く残したかと思えば、絵画も具象画から抽象画へ転向したり、工芸にも作品を残したり、ジャンルや画家という枠に収まらない、今でいうマルチな才能を發揮。明治から昭和の時代を美の追求とともに駆け抜けたことが山田さんのお話からよく理解できました。本人が存命中に指揮して完成した衣笠の堂本印象美術展(写真)は今開催中の展覧会の後、改装工事に入り、しばらく休館。印刷と実物は全然違う、ぜひ実物を確かめてください!と力説されたのが、衣笠小学校に納めた、創造!という文字の一躍日本画壇で確固たる地位を築く。印刷物や画面では伝わらないものを確かめられるのも展覧会の魅力ですね。京都ゆかりの芸術家の世界に触れてみませんか。

長く酒業界で生きました私、酒御間屋もしていた時期もあり、関税の關係で稅務署とのお付き合いが有り、親しくなつた署員方から任天堂の麻雀牌を頂戴しました。木曾マツモ多分、関税の關係で(?! 任天堂さんからタダで貰われたものでしょう。その頃は、世間一般が今の様子をキメた時代でなく、事がおおつかでした。これは日本だけでなく、世界中かも。戦後10年余は、映画の盛んな時代で、キメラ映画や、西部劇が次々封切りされました。が、今は、殆ど無くなりまして。面白かったのに!。1953年(昭28)日本の民主化を、NH

前の戦争時代は、上位下達政府、国民命令を伝える仕組みとして、町内会とそれを細分化した隣組が創られ、その宣伝で、トントンとんからりん!で始まる歌、隣組(岡本平作詞、飯田信夫作曲)は情報に伝達を美にアナログ方法の近所付き合いのことが織り込まれています。我が新聞も借用元々の新聞は、我社の友の会会員さんに配布したもので「マドウ」の紙名でした。マダネット環境に負けない時代)その頃1966年4月27日に東京豊島区池袋のパートの室まで、この部屋は無職A子さん(7歳)と寝たきりの長男ゆさん(41歳)が餓死している事件が



今や、世界中がデジタル時代野感がする。その今、アメリカの大統領にトランプ氏かなつて、ふと子供時代の遊びを思い出した。トランプは、デジタル的で、百人一首

七条大橋橋下磨きボランティアお誘い日時:十二月七日(水) 集合:七条橋 東詰の側 作業:朝時10分程度 準備:手袋 雑巾 タワシ 丹セラ 連絡場所 集西条サカタニ 参加の方電話 075 561 7974 終了後集西条サカタニ2Fでお茶で懇談

とんからりんも、細胞新聞の知識でくっついてる。良いも悪いも自分ごとく来ない。暫く読んでくくりやっしや!

▽年中無休のファミマが主たる店。沢山の方が働いて下さっている。若い時、万国の労働者団結せよ!と叫んでいたのに、人を働かせて自分が休む気になり辛い。資本家に不向きなのかなあ。▽この

▽長らく酒屋。十二月は一番忙しい。ことに三十一日の仕事は翌朝三時頃まで。それから店の掃除をする。世間一般がそう、近所の銀行の人がその頃帰宅される。▽元旦は、通常の日と全く違つた神々しい雰囲気になった。家々には門松。通りの何処を見ても塵一つ落ちていない。神々しい元旦。そして5日迄休業だった。30年前。ビル化までだが。▽人様に笑われるだろうが、来年からとんからりん!のヨシイチちゃんひとり言欄に代えて、何んだ坂こんな坂!という枠で、今までの起伏の多い生き方を反省も入れて書くことにした。▽祖父58才。父は62才で没している。私は72才かなあ。と予定して、生き方を組み立て来た。その目標は努力してクリアしたがまだ元氣。93迄元氣だった生母の血を貰ったのだから。▽

どんつき 12月は今年最後の月、来月は「お正月」。子供の頃は、もう幾つ寝ると!待っても来なかつたのに、歳を重ねるとドンドンドン早く来る。▽私に限らず、この地球に住む全ての人々が、そう感じるらしいことらしく、太古の時代と変わることもなく地球は、太陽の周りを回転しているだけなのに。▽ネの法則

ヨシちゃん のひとりごと



12月8日

大本営発表

見出しの文
字に反応さ
れる方は高年齢層ばかりかもしれない。

1941年昭61尋常小学校の年生だった私は、朝ラジオニュース時間、アナウンスの軍艦マーチに続いて、大本営発表、大本営発表」という予告の後、叫ぶ様な「ラジオアナウンスの



帝国陸海軍は本8日未明、西太平洋において、アメリカイギリス軍と戦闘状態に入り」という声を聞いた。傍に居た祖父は、良しやヨシヤ」と嬉しそうだった。その後、着々戦果を拡大していき、油断は絶対に禁物であります」というフレーズを何回も繰り返した。

少し寒い朝、少し早く登校した尋常小学校の講堂上のスピーカーからも同じニュースが大音で繰り返し聞こえた。朝の通常授業は中止、講堂を全校集会、東洋の君主国、大日本帝国小国民の誇りを自覚を持って」との校長先生の講話を聞き下校した。

翌年、学校は尋常が「国民」に代り、学帽が戦闘帽に代わった。体操時間は男子は剣道、女子は長刀、きんぎょを振り回した。1年生の教科書からサイタ、サイタ、サクラガサイタも消え、三年生から「学童給食」が始まった。

授業に映画観賞も増え、役者が兵隊や徴用で芝居が出来なくなった南座で東宝映画「轟沈」。あの旗を

撃てや、望楼の決死隊等の映画鑑賞が再々有った。新聞報道は、日本軍のフィリピンやシガポールの快進撃を大きく伝え、大東和共衆圏が間もなく出来る様に沸き立っていた。が北太平洋のアツ。キスカ島日本守備隊の玉砕「愈」、更に1944年8月にアメリカ軍が奪還サイパン島と続き、其処に出来た米空軍基地から本土空襲が始まった。空襲は、ローターシヨで火金曜日三時間目、地理の間違った記憶する。

珍しくあれこれ手直しし、つうちに、ふとしたこと、原稿の保存を忘れ、その為原稿を消失した。まったく呆然自失。気を取り直してもう一度やり直してみようと思う。東京は歩くに限る。大それたことをゆづりしてもた、でも、やっぱり、それどころか、大生は歩くに限る」とまで広げては、何をか言わんなのだが、同窓会プリラスの旅に帰省したのはいづれ先日。歩くに限るを実践したのははずか、仙台市内の一部だった。未来都市めく佇まいにはしかし、歩くのは現実離れしてしまっそうだ。東京まで引き返し、さて、半日の余白をと思ったが、月曜日は休館と知り、おまけに雨も降って来そうだと、予定を変更。上野の森から、谷中までを再び歩くことにした。程なく賑やかな太鼓の音がした。世界遺産登録

東京は

歩くに限る 石動敬子

珍しくあれこれ手直しし、つうちに、ふとしたこと、原稿の保存を忘れ、その為原稿を消失した。まったく呆然自失。気を取り直してもう一度やり直してみようと思う。東京は歩くに限る。大それたことをゆづりしてもた、でも、やっぱり、それどころか、大生は歩くに限る」とまで広げては、何をか言わんなのだが、同窓会プリラスの旅に帰省したのはいづれ先日。歩くに限るを実践したのははずか、仙台市内の一部だった。未来都市めく佇まいにはしかし、歩くのは現実離れしてしまっそうだ。東京まで引き返し、さて、半日の余白をと思ったが、月曜日は休館と知り、おまけに雨も降って来そうだと、予定を変更。上野の森から、谷中までを再び歩くことにした。程なく賑やかな太鼓の音がした。世界遺産登録

稲荷山 ぶらり散策記⑱ 越智薫史

今回は稲荷の観光について考えてみる。

神社の鳥居をくぐると俗界とは別世界の清楚で静かな神社の雰囲気広がる。気持ち涼しく引き締まる。神社に日本人がお参りする理想である。初詣などは気持ちよくセットして1年のスタートを切る行事であろう。ところが昨今の伏見稲荷神社は、鳥居はたくさんあつて、次々くぐるがなかなか俗界から脱出することかできそうにない。とても凜とした気持ちに達することはない。



伏見稲荷神社の鳥居はたくさんあつて、次々くぐるがなかなか俗界から脱出することかできそうにない。とても凜とした気持ちに達することはない。



が叶ったという事で、西洋美術館を祝う地元上野の催しだった。幼稚園の鼓笛隊、小学生の合唱、地元東京芸大卒業生姉妹の歌、100人のトランプペットなどだった。最後は「あめ上野駅」の全員合唱だった。いい街だなあと胸が熱くなつた。雨が降りだして、正岡子規の庵、真もあきらめたが、記念球場の名残の銀杏並木の夕暮れは動物園が休みだったためもあり、静寂そのものだった。知らぬ間に町や隣の散策に谷中銀座なども通りたかったが、暮れ早き谷中界隈は雨で一層暗さを増していたので、断念した。その夜、宿のご主人夫妻と芭蕉の江戸界隈の俳句や、互いのわんぱく時代の話、故郷の山河なども、好きなお酒はなぜか関西の「と言われるのに、領きながら、熱燗、燗冷まし、冷酒のど

文化にはいただきます。ごちそうさま。また私に決してこういう外国人観光客を排除したり拒否する気持ちはない。次期米大統領トランプ氏のように異民族や移民を拒否するような態度はとりたくないし、異民族に対する国民感情に迎合しようとも思わない。しからばどうすればいいのか。この異様な風景は、伏見稲荷大社と商店街あたりだけである。一歩商店街を離れると静かな稲荷の住宅街となる。稲荷地域も高齢化が進み、稲荷小学校の来年度の新生も20人という。商店街を中心に稲荷学区全体で観

れがいいかという話へ。秋夜、の軽い奥行に、ワインのような「といてしまった。ワインの「恨み」という最近のエピソードが蘇り、思い出し笑いをし、まったが、そうそう、仙台の同期会でもビールなどといわずワインの赤白を楽しんだ。さて、その夜は熟睡といたいところだが、雨の音に混じり、心残りの「葉記念館や子規庵訪問をして帰ろうかの思いが去来。明け方、突然ゆらゆらと来た。地震だった。結構長く揺れた。帰ろう、出来るだけ早くとなり、また降り出した雨の中急いで帰路に就いた。ひかり号の車中で知ったのはまたまた故郷が震源地との報。あああ、一難去らぬまま、また一難か。高村光太郎の「樹下二人」の詩のような、あれが安達太良山、あの光るのが阿武隈川」の冬麗に訪れた故郷だったが、旅の終わりの地震が津波を引き連れていたことで、忘れじのかの震災はまた何も終わっていないの思いを濃くした。

外国人観光客が押し寄せてきて、それぞれの国の言葉で生活文化を披露してくるからである。とりわけ、奇妙な風景は食文化の違いからであろうか。せむべい、ソフトクリーム、饅頭、焼き、焼肉、リンゴ飴、お好み焼きなどをプレートなどにに入れて食ながら歩いてる風景である。参道や境内のあちこちで見られる。今はもう慣れたことになってしまったが、やはり異様である。私などは小さい時からものを食べる時の作法を親からやなまと言われ育つた。とても歩きながら物を食べるなどしてはなかないと教えられた。日本の食

京都&東山 ぶらりピカリ 71

七条通 ⑰

京都府 京都市 内の東西

「七条通り」の「架」が付く通りで今後大きな変化が展開するのは七条通りだろう。通りの呼び名も『ちじょう』の他「ナナジヨウ」「ヒチジヨウ」これが多い。『ヒツチヨウ』等々。京都の古い習慣で親戚などを住所で代用していた。植物園 千本。吉田、三条、等持院等々。電話でもお互いがそれで通じた。

この七条通りが拡張されたのは明治44年(1911)。伏見町 當時は京都市でないに陸軍第16師団師団の設置に伴い、師団が京都市内に入る。師団街道」が創られ。陸軍伏見師団軍が、鴨川を最初に渡る橋として頑丈な「七条大橋」が出来た。当時「軍用戦車」の重量にも耐える橋が要したのである。私の小学校時代、鴨川沿いの師団街道を軍歌を歌い行進する。陸軍兵の行進を何度も見た。汗臭い匂いと共に今も覚えている。市電もその頃に設置された。



大仏殿の西門が有った地点。その門は明治時代に売却されて、現在は、東寺南門(写真)となつてデント残り、石垣と町名。棟梁町。鑄鐘屋町としての残っている。石垣の北の方に。一際大きく、白い筋が入ったいしがある。



また。知積院門前から西を東大路と七条通り三叉路のも素晴らしい。恐らく日本一の美景と言われる三叉路だろう。

最後のもの。京都の近代化を物語る歴史的建造物として残されることになって、そのままの「形態」を残す条件付きで「カフェ」になっている。(以前写真入りで書いたことだが)最近京都市が重要建築物と指定し

元々この付近の鴨東オウトウ鴨川の東は。豊臣秀吉公が、京都「大仏殿」を建立されたところから町並みが出来た。わが社の東500米で、南側が少し広くなった。その辺の町名は「西之門町」と言う。

市電が走った 京都を巡る 70

北大路 線を走る 市電は、

河原町線を分岐する洛北高校前の交差点を出発し、北大路通をさらに東に向けて進んで行きます。車窓の両側には、商店や小規模なビルが建ち並んだ街並みが続きますが、大きなマンションが出現し始めたのも、市電末期の時代でした。でも、赤なかに入ると、閑静な住宅街が続いているのは、下鴨らしいところです。左手に見える比叡山も、ほとんど近づいてきました。洛北高校前から三百メートルも走ると、もう次の停留場「下鴨東本町」に到着します。

付近に大きな施設や学校があるわけではなく、停留場付近に住む人たちは、通勤・通学の足として利用されています。平日朝の時間帯に実施される市電の急行運転も通過扱いで、乗降客の少ない目立たない停留場でした。昭和九年、北大路線の開通と同時に停留場は設置されましたが、当時は下鴨膳部町(かしわべちよう)と呼ばれていました。昭和二十九年に、停留場付近の町名を採って、下鴨東本町に改称されています。下鴨には、四六の町名があります。市電停留場名に採用されたのは、この下鴨東本町と、東隣の下鴨高木町だけでした。それだけに存在感のある町名と言えますが、実際は北大路通の両側に沿った、筋分のごく小さな町です。

ここから北へ少し行くと、京都市立葵小学校があります。昭和五年に第二下鴨尋常小学校として開校。昭和十六年に葵国民学校となり、昭和二十二年に現在の葵小学校となりました。下鴨のほぼ北半分が校区となっています。



洛北高校前に到着する市電

葵小学校の東側には細い水路が通っています。地図をたどると、松ヶ崎付近から流れ出て、途中で琵琶湖疏水の分線と平面交差して、葵小学校の東側を通り、東本町停留場付近の下をくぐり、住宅地の中を流れ、やがて下鴨神社のなかへと至ります。この小さな水路は、下鴨神社の社の森を流れる、有名な奈良の小川の源流だったので。

「府立大学前」の項でも記しましたが、北大路通に平行する南側の通りは商店が並び、下鴨のお買い物どころとして賑わっていました。下鴨公

比叡山が間近に見える

酒屋で生きて 生かされて



第百十三話 創業者 復讐 喜郎の言葉

喜一郎は、昭和20年9月58才で

亡くなった。当時、私は国民学校六年生の戦時中は縁故疎開(祖父と祖母を養い、理子治田山にしていたが、15日の敗戦で、京都に戻っていて、祖母や妹や親戚と共に死に目に立ち会った。元氣な人だったのに、死はこんな呆気ないのかと驚いた。祖父は、幼い私を連れ、伏見の酒蔵に仕入れる酒運びに連れてくられた。見本に出された何点かの酒試飲(酒を口に含む)を祖父の試飲後、に、「義郎も効き酒」をと、「利き猪口」の酒に指をつまませて、味の感想を聞く、「こつちが美味しいとか、甘い」と応えると「お前はエライ」と褒めて呉れた。

当時は酒蔵で原酒を「桶買い」し店の蔵で保存、店で調べて、上等の酒は「神馬」並酒は「喜買(喜)」「のラベルを貼り売っていた(日中戦争時(昭和)米の統制で終わる)」。また、祖父は「売ると言う字はなあ買うの時の上に、十を載せて出来た字。欲張って二十も載せたら、お客さんが逃げはるで」と言い、「その頃は、何の判断もなかったが、商売での暴利を戒めたのだから」。日中戦争が始まり食糧事情も厳しく、酒造原料米も制限され、生

産される酒の量も年々減り、政府は、昭和15年にアルコール濃度による酒の規格を制定し、級別制度、さらに戦争の激化に伴い、酒も配給制(配18)として生産から消費まで統制の為、酒販免許制度を設けた。緩和され免許も必要



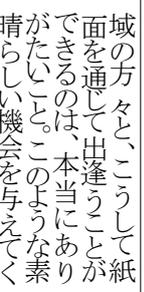
戦時(戦後)にかけて、酒業界は「天蔵省」の厳しい管理下に置かれ、当時「価格競争は抑えられた。写真の看板は、戦後も長く使われ、酒の価格競争は封じられて、酒小売店の黄金時代、昭和40年頃まで、先に書いたところか買うの上に、三千は載っていた。そんな酒屋さんが今は激減。祖父の言葉を信じて来た私の今がある。オキチヤオキニ

年末・クリスマス・お正月と、三拍子そろった慌ただしい月になりましたね。この記事を書いている十一月現在は、関西はまだ十八度、二十度を記録しています。打って変わって、関東では、雪が降った所があるとか。なんだか、アベコベのゴチャゴチャですね。しかし十二月に入ったら、寒くなるのかな？

サンタに 寝顔を！ 月三天

話変わります。一年は早かったです。様々な行事、様々な活動や手作り市。他にも新しいことを始めたりと、いつも以上に早かったです。やはりあれですね、家でじっとしていると時間は長く感じますが、やる事があって、

地平線の あなた 額縁史子



紅葉もすっかり終わりを迎え、街にはクリスマスイルミネーションが輝く時期になりました。仕事柄、前をみて走り続けるだけの私ですが、この時期だけは、少しだけ立ち止まり、一年を振り返るようにしています。たくさんの出逢い、たくさんの機会。今年もまた、沢山の縁をいただく感謝の気持ちでいっぱいになります。

それに向けて動かなければと思ふと、時間が足りなくなってきました。それは、どんな世代でも一緒です。習い事を一つ初めているだけでも、時が「あっ」という間に過ぎてしまいますから。何か活動に参加してごらん回りますから。

このように、人間の中の時間って、自らの心の方向で変わって行くのです。所で、サンタの時間はどうなのでしょう？毎年、一年の終わりに頃は大仕事があります。無垢な心にプレゼントを届けるため、世界各国を、飛び回ります。日本のサンタは、あのモコモコ



音楽とは人と人をつなぐ、目にはみえない架け橋。迎える年にフレイリーパッドは、今までにいた

いたたくさんのご縁を深め、散らばっている点と点を繋いで線へ、線と線を繋いで立体へと、音楽を通じて自分たちを支えてくださる人と人をつなぎ、自分たちを取り巻く環境を大きく一つにしていければと思っています。特に、地元地域とのつながりをより深め、自分たちの活動テーマである京都からの音楽発信を胸高々に、より広く世界に伝えていきたいと考えています。

編集後記

▽早や師走！子供の頃、中々来なかったお正月が、アツと言う間に来るこの頃です。P1の12月8日「宣戦布告」も子や孫にとっては歴史でしょう。▽その宣戦布告を共に聞き、その後もスーと親しくしていた同い年の戦友と親友の二人が、相次いで亡くなり、悲しくて淋しく辛いです。▽戦友「はヤッチャン(鷹)で、当社の初代社長。後山科で酒屋。親友「はエイト(愛)で、貞教尋常小学校一年からの友。60年以上度喧嘩せず、後も週一で会っていた。▽我が世代は、戦中戦後の慌ただしい時を経験、助け合わないと生きて行けない時代を過した。団結力が強いのか、この歳になっても小学校・高校の同窓会が年に一度は必ず開催される。▽敗戦後の混乱、平和が続く、経済も豊かになった。それに反して、人の心が貧しくなった。前の東京五輪と比べて、次の五輪の取り組み方は貧しくお金のトリビッドのようだ。▽店をビル化し、酒屋をコンビニにして30年。24時間年中無休の仕事をして来た。開店時私は53才。ビル建築借入金完済し60歳で辞めようと思っていた。▽酒屋でのお客さんに「配達」を「友の会」をつくり、その後「新聞風」の読み物「まいご」を配布した。池袋事件で、とんからりん」と名を代え、今や207号。▽新聞の作成も専門家に頼んだが、パソコン勉強し、自分で作成し出した。ご投稿も戴き読者の方々から「続けてや！」と偶には言われる。▽それホンマ？と思いつながら、シンドオスドが続きます。今号は「オキチヤ」を埋めてすみません。